



水質事故対策訓練実施

11月7日（金）、国、県、市、消防の担当職員約60名が参加し水質事故の対策訓練が実施されました。

最初に水質事故時の注意事項について東北技術事務所 品質調査課 安倍品質管理係長より説明があり、その後前堀排水樋門の下流部（磐井川合流部）にて実際の水質事故を想定したオイルフェンス設置と吸着マットでの油回収訓練が行われました。

各担当の方々には今回の訓練を活かし、水質事故時には迅速且つ的確に状況把握し処理を行うことで、安全に河川の水が利用出来るように務めいただければと思います。



オイルフェンス設置訓練



油中和剤の取扱いについて説明

油流出事故にご注意下さい!!

上記でも水質事故の訓練を紹介しましたが、これからの寒い季節に注意していただきたいのが、灯油などの油類を誤って漏らし、水路や河川などに流出させてしまう油流出事故です。油流出事故が発生した場合には上水道の取水停止といった生活に関わるもののほか、河川の生態系などにも影響を与えることとなります。また、**事故に関する処理や油類の回収に要した費用は原因者の負担**となります。

事故原因は給油中にその場を離れたりといった「うっかりミス」や、ホームタンクの配管が腐食していたりといった「管理の不備」といった不注意が大半を占めています。

油漏れを起こさないように、右記の点に注意していただくとともに、もし油を流してしまったり側溝や水路などに油が流れているのを発見した場合には、最寄りの消防署・警察署・市町村・国や県の機関に速やかに連絡をお願いします。

油漏れを防ぐための注意点

- その場を離れない・目を離さない
ホームタンクなどから灯油を小分けする際には絶対にその場を離れない。
- 屋根からの落雪や除雪時に注意
屋根からの落雪や除雪作業で、ホームタンクや給油管が破損していないか注意しましょう。
- 配管の場所には目印を
配管の破損を防ぐために雪囲いをしたり、配管の場所が雪でわからなくならないように目印をたてておきましょう。
- 定期点検を怠らない
配管やホームタンクの定期点検に努めましょう。



油流出事故の写真。キラついた油膜がみられ、灯油独特の臭いがします。



処理にはオイルフェンスや油吸着マットを使用します。場合によっては高額な費用になる場合も。

◆◆編集後記◆◆ 「ポー」という焼き芋屋さんの音に反応し、500円玉を握りしめ、玄関から外に飛び出して行く季節になりました。あったかいこたつにあたりながら食べる焼き芋は美味しいですよ(*^_^*) (ゆ)